本山美彦教授近影

本山美彦 教授 記念論文集

献　　辞

本山美彦教授は，平成18年１月１日に63歳の誕生日を迎えられ，同年３月31日をもって，本学を退職されることになりました。

本山教授は，昭和40年３月に京都大学経済学部卒業後，本学経済学研究科修士課程，博士課程に進学されました。昭和44年４月に甲南大学経済学部助手に採用され，講師，助教授を経て，昭和52年４月に京都大学経済学部助教授に着任，昭和61年７月に同教授に昇任され，経済動態分析専攻の「世界経済論」担当教授として，長きにわたって本研究科の教育・研究に尽力されてきました。

本山教授は，世界経済論に関する多大な研究業績を残すとともに，多くの後進を指導し，育成されてきましまた。15冊の単著，10冊の共編著，５冊の翻訳，200本以上の学術論文は，その数だけでも驚くべき業績です。さらに，本山教授が指導された卒業生は250名以上に達し，そのうち大学をはじめとする研究機関の在職者は30名近くに上っています。

本山教授は，処女作『世界経済論』（同文舘，1976年）により，学界において確固たる地位を占められ，博士学位論文『貿易論序説』（有斐閣，1982年）により，その地位は不動のものとなりました。本山教授の研究は，貿易・国際金融・南北問題など，世界経済論の対象領域のほとんど全てをカバーし，多くの独創的な研究は，今なお大きな影響を学界に与えて続けておられます。とりわけ，リカードの比較生産費説に対する通説的理解に，ルイスの二重経済モデルを対置した独自の「国際価値論」や，国際分業を多角的に決済するシステムと植民地通貨制度の関係を，ヒルガートの先駆的研究に依拠しつつ実証的に解明した独自の「世界市場論」などは，世界経済論研究の第一人者として，本山教授の評価を定着させた業績です。何よりも特筆しなければならないことは，本山教授の研究の通底には，本学部の大先達である河上肇に直結する「貧困」の問題があったことで，この問題意識は，グローバリゼーションに関する最近

作まで貫かれております。

本山教授は，平成８年７月から平成10年７月まで京都大学評議員，平成12年４月から平成14年３月まで大学院経済学研究科長および経済学部長を務められ，その重責を果たされました。また，日本国際経済学会長（平成８年10月～10年10月），日本学術会議第18期第３部会員（平成12年７月～15年７月），社団法人・国際経済労働研究所長（平成８年10月～17年３月），独立中間法人・京都大学学術出版界理事長（平成17年10月～現在に至る）等の重職に就かれ，長らく学界において指導的役割を果たされました。さらに，狭義の経済学研究者を対象とする活字媒体だけではなく，多くのメディアを通じたオピニオン・リーダーとしても広く活躍してこられました。

京都大学経済学会は，先生の多年にわたるご功績と学恩に感謝と敬意の気持ちを込めて，本記念号を編集いたしました。先生の同学の方々とご指導を受けられた方々の論文を編んで先生に捧げることはできますことは，わたくしどものこのうえない喜びであります。

先生が，今後とも，ますますご健康で，学界のため，また広く社会のため，ご活躍下さいますことを心からお祈りいたします。

平成17年９月１日

京都大学大学院経済学研究科長　西　村　周　三